




ノボロギク（野檻樓菊）  一年中 F

[キク科キオン属]

ヨーロッパ原産とされるキク科の帰化植物で、明治時代に国内で確認された。農地や道端でよく見掛ける。昔は薬用・食用とされることがあったが、近年になって有毒植物であることが確認されている。



ウスベニニガナ（薄紅苦菜） E

[キク科ウスベニニガナ属]  4~12月
在来種だが、世界の熱帯域でも広く分布し、開花前のものを野菜として用いることもある。やせ地を好み、三保松原では普通に見られるが、多種との競合に弱く、絶滅危惧種に指定している県もある。

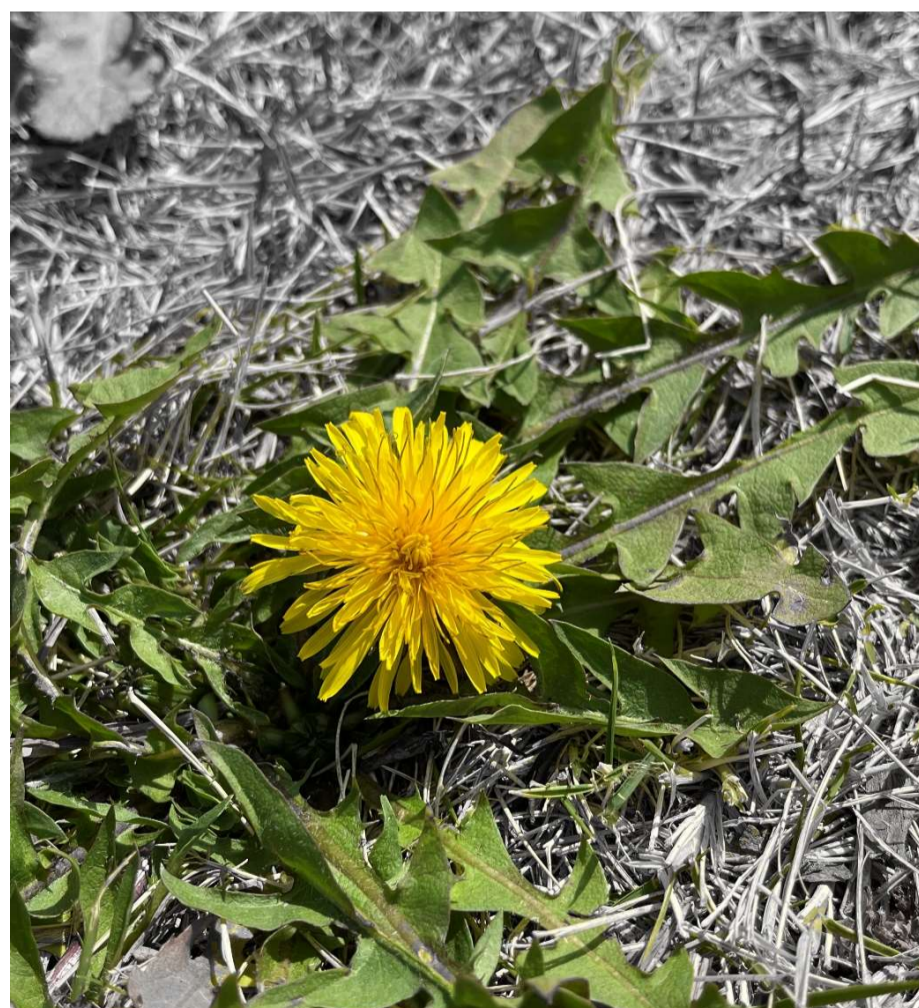


コセンダングサ（小梅檀草） F

[キク科センダングサ属]

 9~10月

明治頃に帰化した北米原産の植物で、外来生物法の生態系被害防止外来種に指定されている。種が衣服につきやすく、引っ付き虫と呼ばれる雑草の一種である。



セイヨウタンポポ（西洋蒲公英） F

[キク科タンポポ属]

 3~10月

北米原産で、明治時代に北海道に野菜として導入されたものが全国的に拡大したものとされる。外来生物法の生態系被害防止外来種に指定され、かつ日本の侵略的外来種ワースト100の一つ。